



れんけい

題字：松尾信彦書

新年のご挨拶

院長 河内 正光

新年あけましておめでとうございます。昨年は県立中央病院の運営につきまして多大のご指導、ご支援をいただき誠に有難うございました。日本の昨年1年を振り返りますと、夏から秋にかけて関東地区などで台風による水害が繰り返し発生し、医療をはじめとする災害への対応力の重要性を改めて認識致しました。また、10月には消費税が10%となり、今後の医療費への影響が懸念されているところです。一方で吉野 彰博士がノーベル化学賞を受賞し、日本の基礎科学力を再認識するという素晴らしいニュースもあり、また、ラグビーW杯では、日本代表チームの躍進により「One Team」という流行語も生まれ、日本人の良さを実感したところでした。

さて、県立中央病院では、緩和ケア病棟が昨年15床に増設され、また、救命病棟も12月より20床から24床への運用に復帰させました。それぞれがん診療及び、救急医療への貢献を期待しております。また、昨年より、「外来統括医」において、地域の医療機関の皆様からのご紹介をスムーズに受け入れる取り組みを行っていますが、「救急搬送要請には最大限応ずる」という方針と共に、今後も継続して行ってまいりたいと存じます。また、従来より地域連携室を通して地域医療機関の皆様とは常に緊密な連携を取らせていただいておりますが、ファックスでの予約も月900件を超えて、紹介あるいは当院からの診療依頼も増加傾向にあります。ご紹介いただいた患者さんにおいて急性期を脱し、症状が安定した方については、地域の医療機関で継続治療が行えるよう、積極的に逆紹介を進めてまいりますので、今後とも当院との病診・病病連携にご協力頂き、これまで以上に皆様方との連携を深めていくことができますよう、ご指導、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

この1年が皆様にとって、幸多い年でありますことを祈念して、新年のご挨拶と致します。

NEWS

日本血栓止血学会の「血友病診療連携地域中核病院」に認定されました。～香川県に於ける血友病患者のQOL向上を目指して～

血液内科 副院長 川上 公宏

かつては、血友病患者は出血しやすいという体質のため、就学、就労、結婚など社会的な面でハンディキャップを背負い、関節内出血のためにADLの低下を来す方も多く見受けられました。以前の様に出血イベントに対して血液凝固因子を補充するのではなく、予防的に定期的に補充する方法が導入され、投与後の半減期が長い製剤が導入され、更に新たな機序を有する抗体薬が開発されました。これにより実際に出血する機会は減少し、血友病患者のQOLは目覚ましく改善しました。そして、スポーツを含めたライフスタイルに合わせた凝固因子活性のトラフ値を設定する個別化治療が可能になりました。これを実践するにはより専門的な診療を行う必要があります。決まった量の製剤を処方する事にとどまらず、詳細に出血イベントを把握し、治療の改善策を提案する事が望まれます。また、出血により障害される関節の評価と治療および様々な手術の際のバックアップ体制も必要です。血友病治療を行っている施設は500以上ありますが、全施設がこれらの機能を整備することは困難であると予想されます。一方で血友病センター機能を有する施設に全患者が受診することも現実的には困難です。この問題を解決するため2018年1月に日本血栓止血学会血友病診療連携委員会が発足して「診療連携」のシステムを作り、「血友病診療連携ブロック拠点病院(15施設)」と各県に1施設以上の「血友病診療連携地域中核病院」を認定しました。香川県では県内施設と相談の後、2019年に当院が認定されました。

今後は、かかりつけ施設で治療を継続しながら、「人間ドック」の様に血友病の状態を年に1回程度血友病拠点病院を受診してフィードバックをうける方法が望ましいと考えます。

当院の血友病診療チームのメンバーは医師(川上・脇)、看護師(野村)、薬剤師(中山・石野)、検査(杉)です。更に整形外科医師、セラピスト、歯科医師を加えたOne Teamを結成してゆく予定です。

皆様の更なるご協力をお願いいたします。



information

カクテル療法を用いた術後疼痛の少ない人工膝関節置換術

整形外科 部長 吉川 豪

変形性膝関節症や関節リウマチに対する人工膝関節置換術（TKA）は、長期耐用可能なインプラントの開発や整形外科医の技術の進歩にともない中長期的な成績が向上しました。しかし、人工膝関節置換術は術直後の疼痛が整形外科手術の中で比較的強い手術の一つといわれ、患者さんの満足度を下げる大きな問題となります。長年、術後疼痛対策として持続硬膜外麻酔が一般的に用いられてきましたが、手技が煩雑、効果が不安定、穿刺部血腫などの問題点が、高齢者の多い本手術においては少なからず存在します。

そこで昨年からは本院整形外科では、関節周囲多剤カクテル療法（通称カクテル）と麻酔科医師によるエコーガイド下大腿神経ブロックの併用で術後疼痛管理を行っています。カクテルとは長時間作用性局所麻酔薬（アナペイン）、NSAIDs（カピستن）、ステロイド（ケナコルト）を注射器内で（まさにバーのカクテルのように）混ぜて、手術中に術野内の筋肉、関節包などの関節周囲組織に注射します。手技も簡便な上、問題となる副作用もほとんどありません。効果の程度と持続時間には多少の個人差はありますが、術直後から翌日まで効果的です。それ以降の痛みは、NSAIDsやトラマドールの内服薬でコントロールします。このカクテルによる疼痛緩和効果でスムーズな術後理学療法への移行が可能となり、痛みの少ない良好な膝関節機能獲得へとつながります。

本院整形外科へご紹介くださる地域の先生方の期待にお応えするために、より患者さんの満足度の高い人工膝関節置換術を目指しますので、今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。



クリーンルームでの手術光景



当院で主に用いている PS 型 TKA

information

がん性疼痛看護認定看護師について



緩和ケアセンター 看護師長 西山 美穂子

がん患者の70%は痛みを感じると言われます。痛みがあると身体的につらいばかりでなく、日常生活においても痛みがあるので「食べられない」「眠れない」「不安になる」など、いろいろな困りごとがでできます。「がんの痛み」についての調査では、多くの方が痛みを我慢しており、全体の58.3%の方が「基本的にがんの痛みは我慢するもの」、51%の方が「あまり痛みを訴えると、そのことが治療の妨げになる」と考えていました。

痛みは、身体の中で起こっている変化を知らせてくれるシグナルとなりますが、その原因がわかったら、しっかりと治療に臨めるように、毎日の生活に影響していた困りごとが無くなるように、つらい痛みはできるだけ早く取り除くことが大事です。

がん性疼痛看護認定看護師は、がんに伴う身体やこころの痛みを抱えた患者さんやそのご家族のつらさを和らげ、安心して治療を受けられるように、その人らしい生活が送れるように支援することを目標としています。

information

ご存知ですか？当院の三つ星ヘルシーランチ店！

栄養部 技師長 橋本 真澄

当院のレストラン ピアンモールが、この度、三つ星ヘルシーランチ店に登録されました。三つ星ヘルシーランチ店とは、美味しく健康に配慮したランチメニューを提供しているお店として香川県に登録したお店です。登録基準は、①主食・主菜・副菜が揃っている、②エネルギーが1日の必要量の1/3程度、③野菜がたっぷり入っている（120g以上）、④油・砂糖・塩分が控えめになっている、以上の4つを満たしているメニューを提供していることです。

当院のレストランで提供している月替わりヘルシーメニュー（税込820円）は、主食の量を調整することにより、1食当たり約500kcal、600kcal、700kcalになっており、2月のメニューは「チーズタッカルビ（韓国の焼肉料理）」です。

2月は、一般社団法人日本生活習慣病予防協会において「全国生活習慣病予防月間」に指定されており、当院では、2月19日（水）*かがわ食育の日*に、食育キャンペーンを実施します。

この機会に、ぜひ月替わりヘルシーメニューをご賞味ください。

「1日3食 まず野菜！」食育キャンペーン実施

- 1 日 時 令和2年2月19日（水）11:30～13:30
- 2 場 所 香川県立中央病院 1階 レストラン ピアンモール
- 3 内 容 ①月替わりヘルシーメニューを注文した方
「三つ星ヘルシーランチ店ガイドbook2019」プレゼント
ワンドリンク無料サービス（コーヒーまたは紅茶）
②野菜あてクイズ（景品あり）
- 4 その他 駐車料金をご負担ください。
（30分無料の後、30分ごとに100円。外来受診の場合は規程のとおり。）



NEWS



病院祭・院内コンサートを開催しました

業務課 近藤 歩

10月19日（土）に第11回病院祭を開催しました。各種イベントや、医師による公開講座、香川県視覚障害者福祉センターによる盲導犬に関する講演、アーティストや木太中学校吹奏楽部の皆さんによるコンサート、院内ツアーなど盛りだくさんの内容を実施し、昨年度よりも多くの方にご来場いただきました。

今年度は、1階ロビーにて大々的にイベントを開催し、例年よりもイベント数も増やしました。例年人気の白衣体験、薬剤師体験のほか、3年前ご協力いただき大人気だった当院ボランティアの方による水彩画教室、また香川県赤十字血液センターのご協力を得ての献血クイズ・献血体験なども開催しました。水彩画教室はお子さまだけでなく大人の方にも人気で、入院患者さんにもご参加いただき楽しんでいただけました。

院内ツアーは、昨年度参加できなかった方がいたことの反省を生かし、増便して実施しましたが、すべての便にお申込みをいただき、皆様が院内や最新の医療機器に興味を持ってくださっていることをますます実感いたしました。

また11月2日（土）には、今年度のNHK全国学校音楽コンクール四国ブロック大会で金賞を受賞された坂出高校合唱部の皆様をお招きし、院内コンサートを開催しました。

院内のテレビに中継するほか、多くの患者さんやご家族の方にお越しいただき、美しい歌声と楽しいダンスをご鑑賞いただきました。歌に合わせて体を動かすなど、あたたかいコンサートになりました。

当院では、今後もこのようなイベントをとおして、地域の皆様との触れ合いを大切にするとともに、患者さんやご家族の方にも安らいでいただけるような場を提供してまいります。

☆院内コンサートは、定期的に開催をしております。院内掲示板などでもお知らせしております。ぜひご覧ください。



R1.10.19 病院祭



R1.11.2 坂出高校合唱部コンサート

薬のはなし ー薬は不完全なものである?!ー

薬剤部 副薬剤部長 中筋 美保

11月に香川県で中国四国薬学会が開催されました。その中の講演で、「薬は不完全なものである?!」という言葉がありました。

確かに薬には不完全な側面があります。十分な効果がでないことや、有害な副作用がでることがあります。薬は不完全なもの、だからこそ薬の専門家である薬剤師が、薬の効果が十分にできるように、そして副作用を最小にするように関わる必要があります。

病院では、5月から入院患者さんの薬には病棟を担当する薬剤師が積極的に関わり、病棟薬剤業務に取り組んでいます。ベッドサイドに伺い、薬のアレルギーや持参薬についてゆっくりお話しを聞くようにしています。

また、外来患者さんの薬では、院外処方箋に検査値を印字し、保険薬局の薬剤師も検査値を参考にして、薬の適正使用に関わるようになりました。

病院と保険薬局は定期的に薬薬連携研修会を開催して必要な情報を共有しています。

これからも薬剤師が薬のプロとして病院と地域を繋ぎ、薬の適切な使用に積極的に関わっていきたいと思います。



“くすりあるところに薬剤師あり” 第58回中国四国薬学会にて 2019.11.9-10

コラム お通じにまつわるうんちく話(その11)

消化器内科 部長 田中 盛富

おなかが張るという症状で困っている方は多いのではないかと思います。便秘になるとおなかが張るという場合がありますが、便がきちんと出ていてもおなかが張るということもあります。

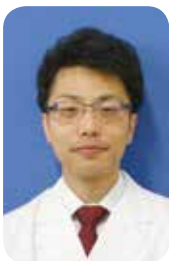
おなかが張るときに腸内のガスが本当に増えているのかどうかという問題はありますが、以前お話したように腸内のガスは、腸内細菌が食物繊維などを利用して発酵を行うことにより発生するガスがほとんどです。そして腸内細菌の種類や食事内容によって発生するガスの量は変化するものと考えられます。腸内細菌を変化させることは簡単ではありませんが、食事は注意できます。

数年前より、低FODMAP食という食生活が腸内ガスを減少させるのではないかと注目されています。FODMAPとは、オリゴ糖、二糖類、単糖類、ポリオールという腸内で発酵しやすい炭水化物の英語の頭文字を合わせた言葉であり、これらを控えることにより腸内ガスの発生を抑えるという考えです。具体的には砂糖の入った甘いものや人工甘味料、さらには小麦や豆類、一部の野菜なども含まれます。厳密にすべてを控えるのは難しいですが、おなかが張って困る方は、思いあたる食品から試してみるのはいいかもしれません。



次回も腸内細菌、腸内環境にちなんだお話の予定です。

医師の人事異動 ● 転入 (11月1日付) ①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負



齋藤 映介 (循環器内科)
①岡山大学
②平成25年
③ドライブ
④医師7年目の齋藤と申します。以前丸亀で労災病院に勤務したこともあり、久しぶりの香川でとてもうれしいです。よろしくお願いします。



奥村 澄枝 (麻酔科)
①久留米大学
②平成6年
③家でじっとしていること
④救急医として働いていましたが、十数年ぶりの麻酔科勤務です。よろしくお願いします。

● 転出 (11月30日付) **近藤 治朗** (腎臓膠原病内科)
山本 圭亮 (循環器内科)
(12月18日付) **鈴木 雅美** (麻酔科)

医療セミナーを開催します

日時：2月27日(木) 19:00～
場所：当院1階講堂
テーマ：「不整脈の非薬物治療～植込みデバイスとアブレーション～」
講師：循環器内科 部長 大河 啓介

